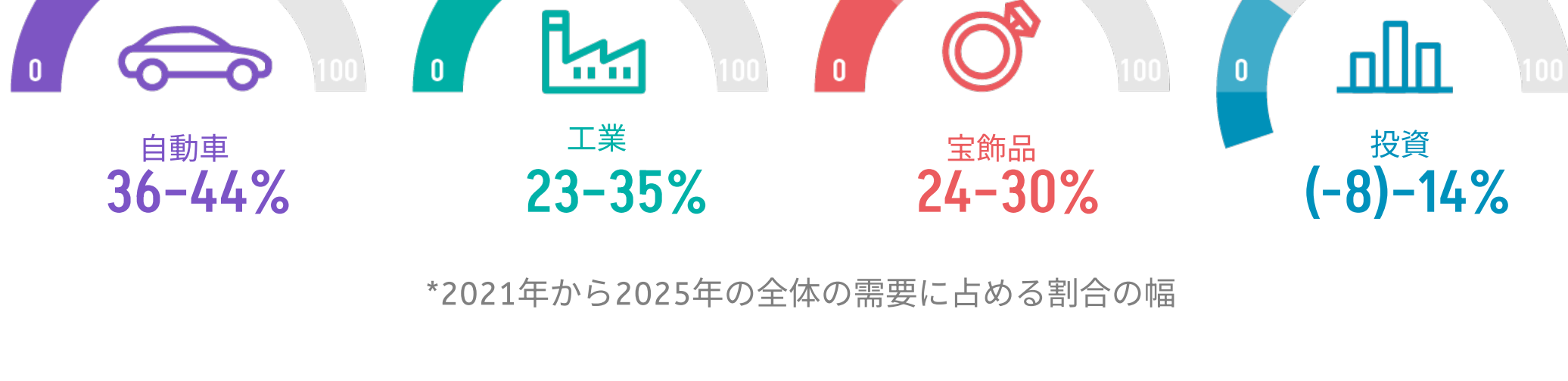


プラチナは世界で最も希少な金属の一つであるが、その物理的特質や触媒特性から、重要鉱物を必要とするエネルギー転換技術を含む幅広い多様な分野で高い利用価値がある。

プラチナ需要の4大需要分野



*2021年から2025年の全体の需要に占める割合の幅

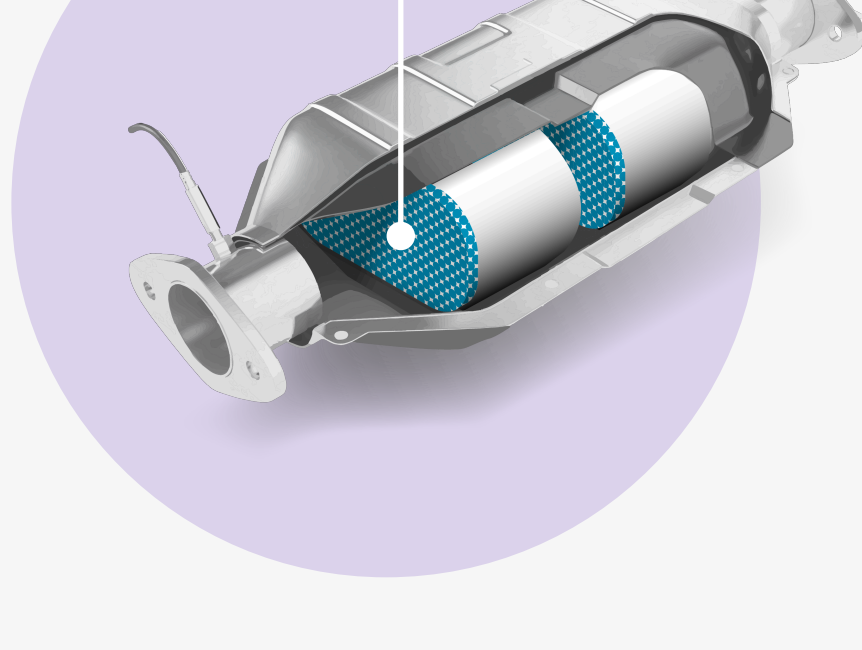
自動車

自動車のプラチナ需要は最大の分野で、過去5年間で需要の36%から44%を占めてきた。

自動車触媒

プラチナは、世界各国でますます厳しくなる排ガス規制に適合しなければならない自動車において、排気ガス削減の中心的な役割を担っている。

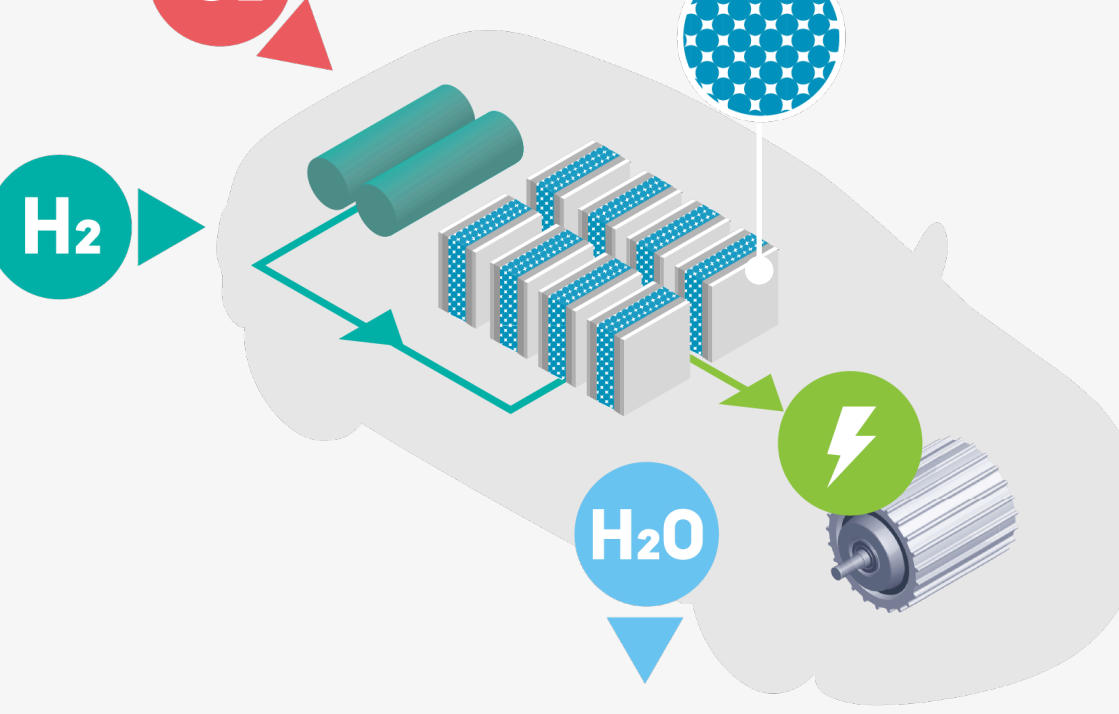
地球温暖化の抑制に向けた世界的な排出削減目標を達成するため、運輸業界の電動化が不可欠なのは間違いない。だが、現行の技術では、すべての車両の用途や地域が電動化に適しているわけではない。そのため、ディーゼル車・ガソリン車は、今後も当面の間、動力源の構成において重要な部分を占め続ける。ただし、その割合は徐々に減少し、ハイブリッド化が進むことになる。



燃料電池自動車

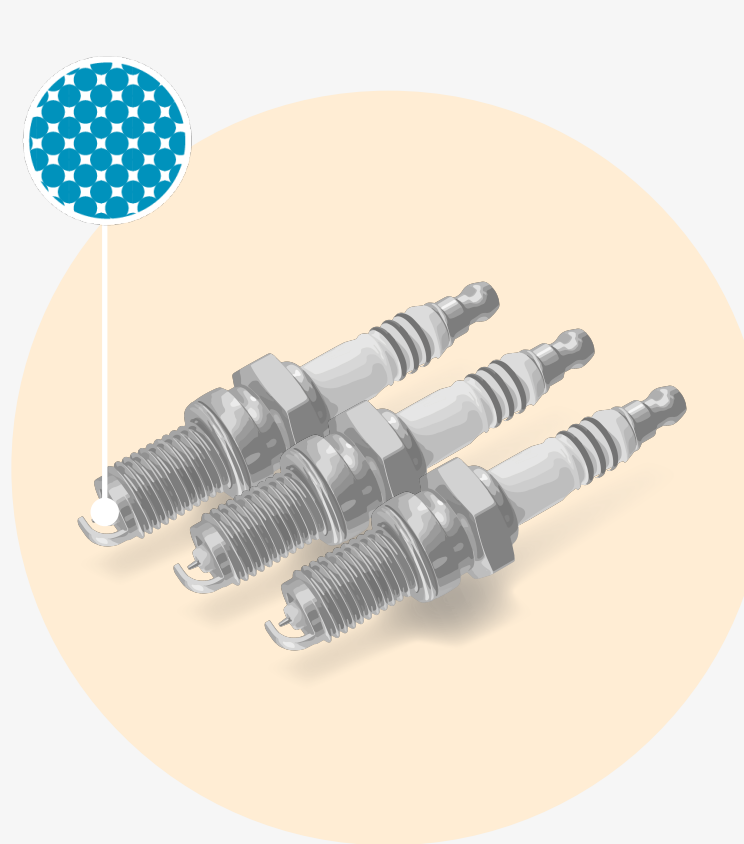
燃料電池自動車(FCEV)は、プラチナの優れた触媒特性と導電性を使って水素を空気と水に転換して発電を行う、ゼロエMISSIONの電気自動車。FCEVは充電の必要はなく、わずか3分間で水素の補給ができ、航続距離は約600キロ。トラック、バスなどでは燃料電池車の普及が進んでおり、補給インフラも増えている。

今後、燃料電池自動車のプラチナ需要は加速的に増加するだろう。



スパークプラグ

プラチナは、温度、エアバック、炭素排出量をより軽減する酸素量などをモニターするセンサーやスパークプラグなど自動車の触媒装置以外のその他の部品にも使われている。



工業

多岐にわたる工業需要は、プラチナ需要の中で2番目に多く、過去5年間の需要の23%から35%を占める。

硝酸

プラチナの触媒特性は、肥料製造に使われる硝酸産、原油から高オクタンガソリンを生産する石油化学産業で活かされている。

AIによる技術革新は、ハードディスクドライブ、半導体、センサーの利用の増加を通じて、電子材のプラチナ需要を支えている。

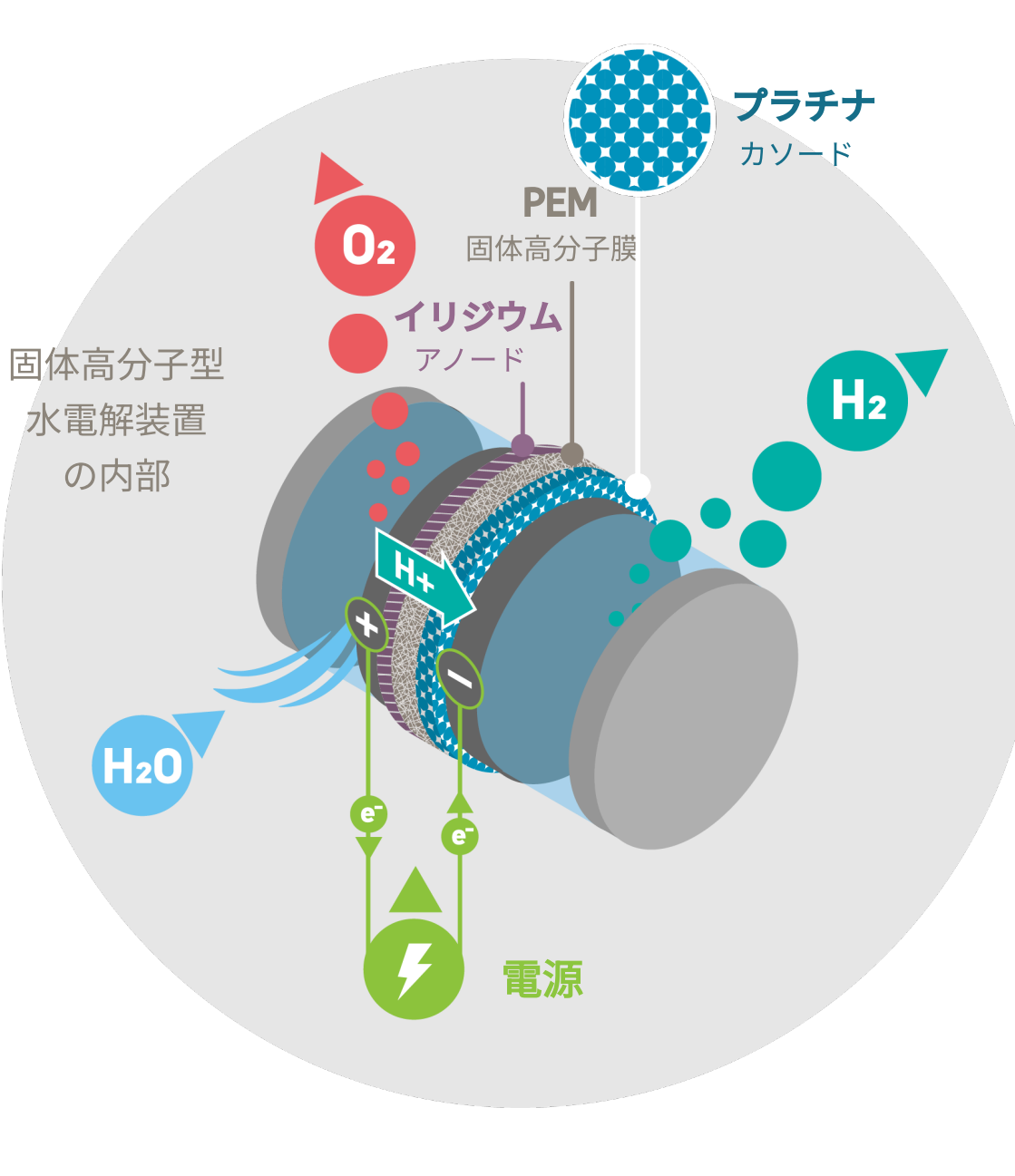
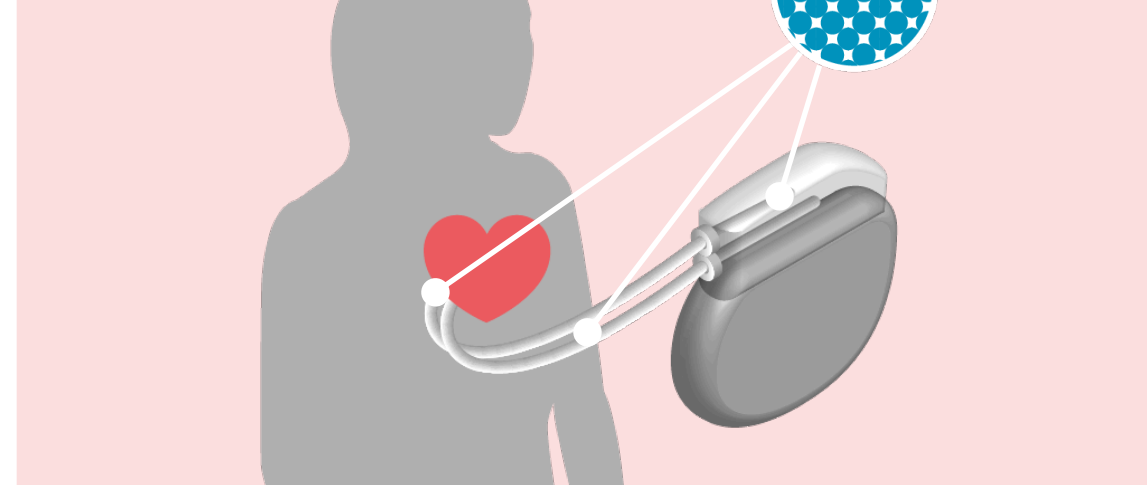
ガラス

プラチナは融点と酸化抵抗力が高く安定性にも優れているため、変形や不純物の混入を防ぐことができ、ガラス産業にとって非常に重要な物質である。液晶スクリーン、ガラスファイバーの製造にはプラチナが欠かせない。



医療

プラチナは生体適合性が高いことから、多くの治療に使われて久しいが、最先端の治療にも採用されており、がんの治療薬にもプラチナを使うものがある。ペースメーカーの電極はプラチナを含む。



水素

プラチナ需要の新しい分野として期待されるのが水素経済の発展だ。固体高分子膜(PEM)技術は水電解装置でプラチナ触媒を利用して、再生可能エネルギーを使いカーボンフリーのグリーン水素を製造する。

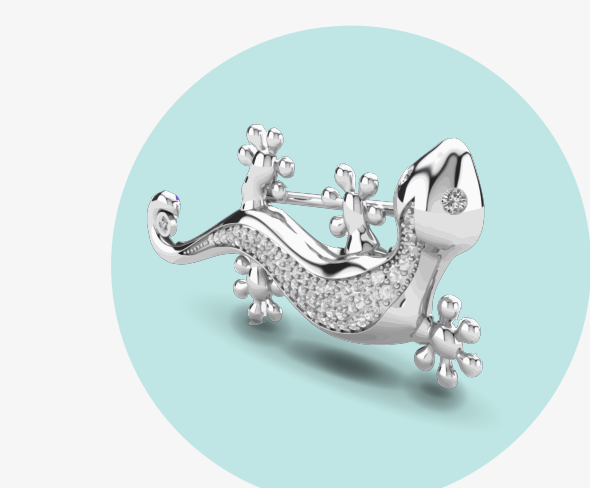
グリーン水素は化石燃料の代わりとして、発電、暖房、肥料生産、製鉄、持続可能なジェット燃料、さらには燃料電池など、幅広い利用が可能だ。

宝飾品

世界の宝飾品のプラチナ需要は過去5年間で需要の24%から30%を占めてきた。

世界的に高級宝飾品としての位置付け

プラチナ宝飾品は高級宝飾品、愛情を象徴する宝飾品として位置付けられており、プラチナ・ギルド・インターナショナルが1975年から市場の開拓を担っている。プラチナはダイヤモンドや貴石の石留めにも非常に適している。



中国

中国のプラチナ宝飾品には新しいデザインが増え、その魅力が多く層に広まっている。



米国と日本

米国では婚約指輪にプラチナが好まれ、日本では何世代にもわたって結婚指輪に人気がある。



インド

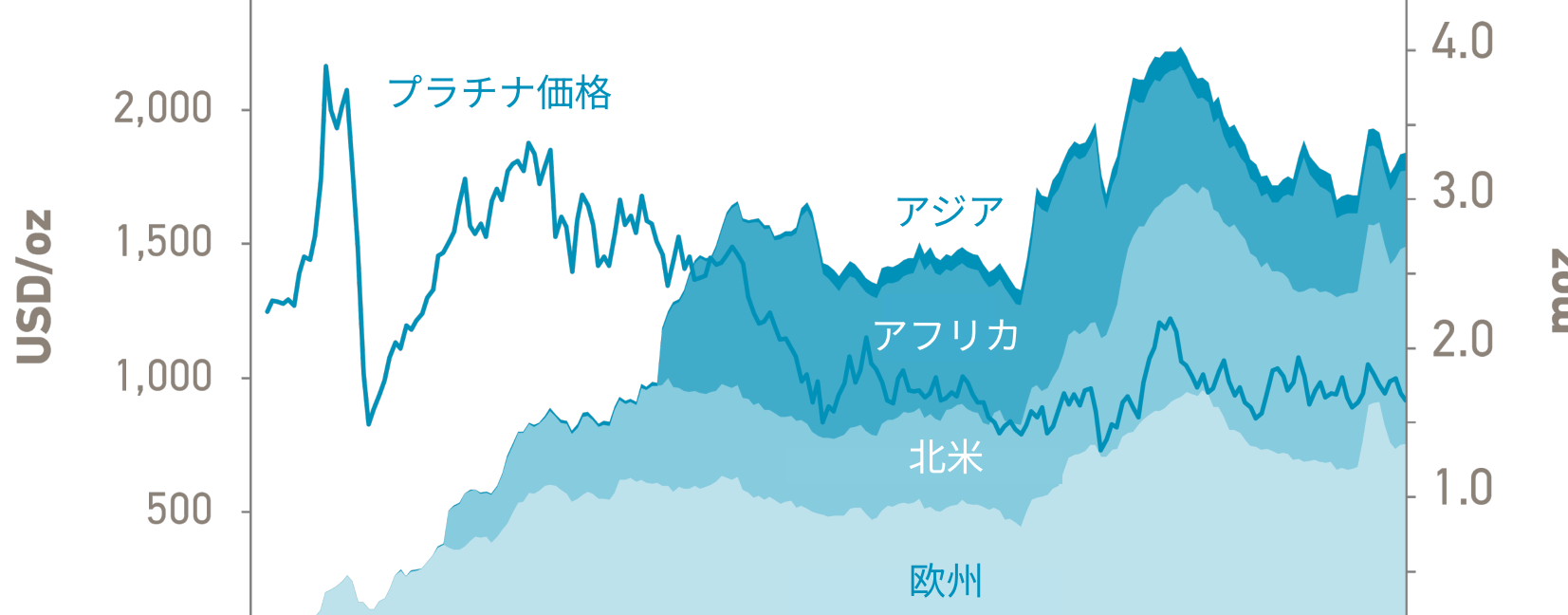
インドは男性向け宝飾品市場を含むこれらの長期的な成長を牽引する。

投資

投資需要は過去5年間でプラチナ需要の-8%から14%を占める動きが最も大きい分野。(ネットベースの投資で地上在庫の増減を除く)

現物プラチナ ETF

現物プラチナが原資の上場投資信託(ETF)は世界各地の市場で主要な投資商品となっている。



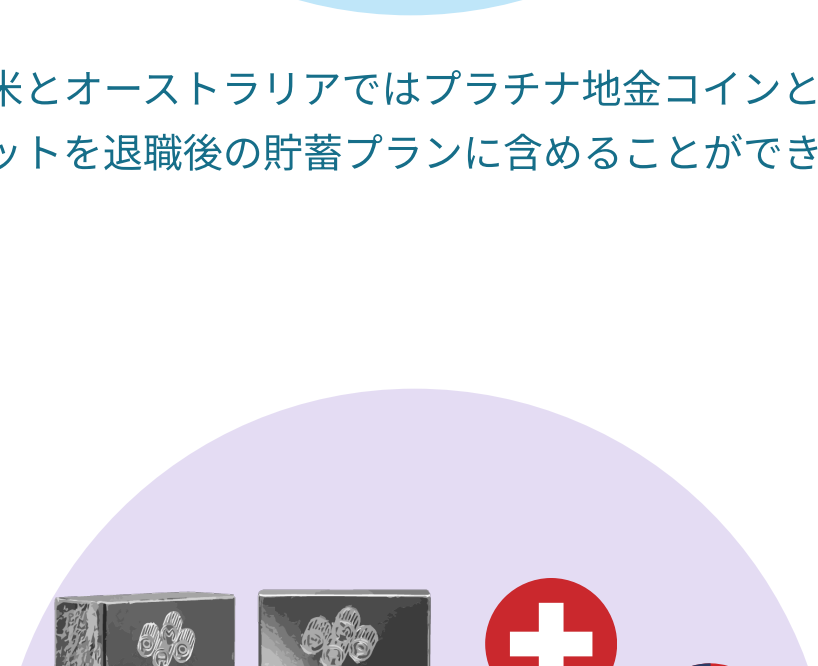
各国のプラチナ投資商品の例



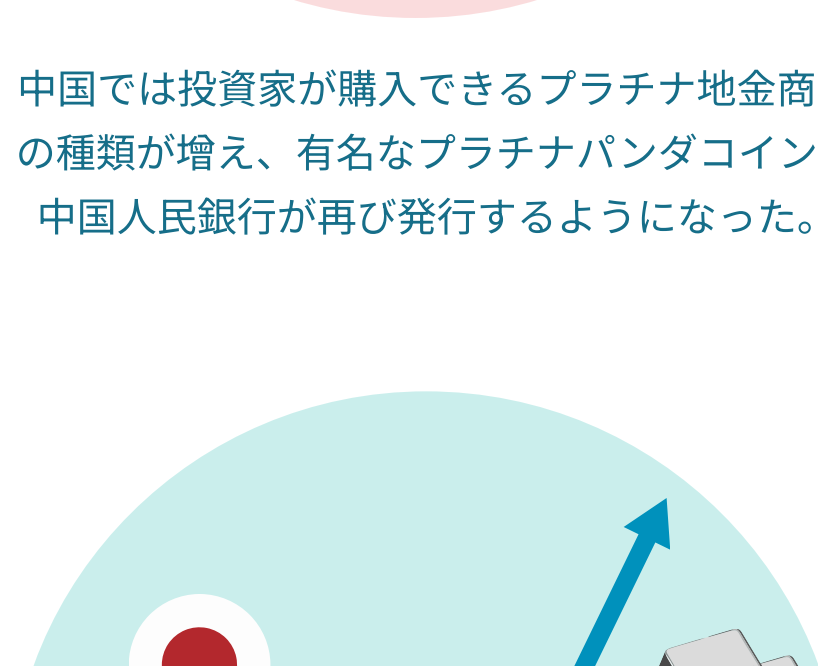
北米とオーストラリアではプラチナ地金コインとインゴットを退職後の貯蓄プランに含めることができる。



中国では投資家が購入できるプラチナ地金商品の種類が増え、有名なプラチナパンダコインも中国人民銀行が再び発行するようになった。



個人投資家、機関投資家は購入したインゴットを保管庫で保管できる。



日本の個人投資家は1980年代からプラチナ積立口座を通じてプラチナに投資している。